

MIS050-P10

会場:コンベンションホール

時間: 5月23日17:15-18:45

## チリ中部沿岸の地震による津波について

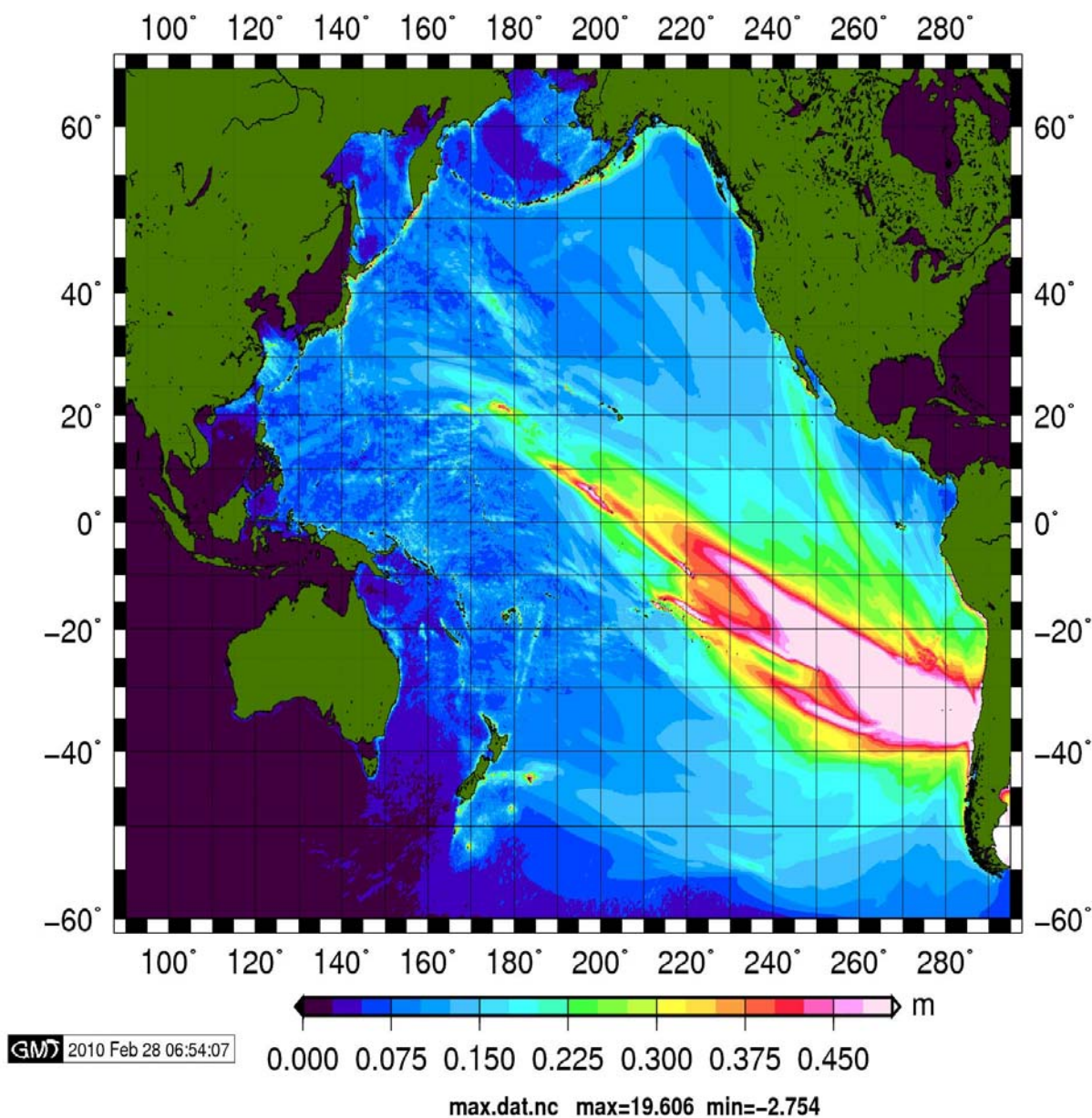
### Tsunami generated by the 2010 Chilean Earthquake

尾崎 友亮<sup>1\*</sup>

Tomoaki Ozaki<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup>気象庁地震火山部地震津波監視課

<sup>1</sup>Japan Meteorological Agency



平成22年2月27日15時34分（日本時間）、チリ中部沿岸でマグニチュード8.8（気象庁によるモーメントマグニチュード）の地震が発生した。この地震により津波が発生し、日本においても、太平洋沿岸を中心に北海道から沖縄県にかけての広い範囲で津波を観測した。気象庁はこの地震による津波に関して、28日9時33分、東北地方太平洋沿岸に津波警報（大津波）を、北海道から沖縄の太平洋側を中心とした広い範囲に津波警報（津波）、津波注意報を公表した。

我が国では地震発生約22時間後の13時47分、北海道根室市花咲で津波の第一波を観測した後、各地で津波を観測した。第一波到達後、各地で、より振幅の大きい後続波が観測された。各地の主な最大波は、北海道根室市花咲で1.0m（18時23分）、岩手県久慈港で1.2m（17時01分）、宮城県仙台港で1.1m（20時52分）、高知県須崎港で1.2m（19時42分）、鹿児島県志布志港で1.1m（19時56分）等であった。

津波は長時間続いたものの、次第に減衰し、津波警報（大津波）は19時01分に津波警報（津波）に切り替えた。その後も津波警報から津波注意報への切り替えや、津波注意報の解除等を順次行い、3月1日3時06分にはすべての津波警報を解除、10時15分にはすべての津波注意報を解除した。

3月1日から2日にかけては、主な浸水被害の発生した岩手県、宮城県で現地調査を行い、津波の痕跡をもとに、岩手県陸前高田市で1.9m等の津波高があったことが推定された。

気象庁は一連の津波警報等を作成・発表するにあたり、日本における津波高さを推定するため、遠地津波用量的津波データベースを活用するとともに、シミュレーション計算を実施した。米国地質調査所（USGS）によるM8.8の震源をもとにシミュレーションを実施したところ、DARTブイやハワイの潮位データと比較的整合した結果が得られたことから、遠地津波用量的津波データベース及びシミュレーションそれぞれでM8.8を想定した結果をもとに、日本沿岸の津波警報を作成した。予測結果は東北地方沿岸で3mを超えるものとなり、津波警報（大津波）を発表することとなったが、観測結果は現地調査によるものも含めて2mに達しない程度であった。

図：津波数値シミュレーションによる津波高さ分布図（M8.8）

キーワード:津波警報,チリ中部沿岸の地震,量的津波データベース,津波シミュレーション

Keywords: Tsunami warning, The 2010 Chilean Earthquake, Quantitative tsunami database, Numerical simulation of tsunami propagation